濱の若者（六卷）

帝キネ百々之助映畫

原作兼脚色者　小國　比沙志氏
監督者　森本　登良男氏
撮影者　立花　幹也氏

――主要役割――

濱の若者勇藏　市川百々之助氏
その父五兵衛　嵐寛十郎氏
次男喜二　市川吉三氏
三男藤作　市川百二氏
濱の娘お濱　山下澄子嬢
同　お吉　濱比千榮子嬢
無賴漢龍五郎　田村忠雄氏
同　仙吉　靜香八郎氏
馬鹿の力松　市川百一氏

【略筋省略】

世界を海に求めて氣分をガラリと變えて居るのは良いが、物語が少し簡單すぎて賴りない、だが何時もの幕末劇より總てが明るい感だつたのは氣持が良かつた。小國比沙志氏の原作兼脚色は客受のする場面を作る事は忘れてゐないが、趣向がなさすぎて物足らない感を客に與へて居る。森本登良男氏の監督は益々好意が持てる樣になつた。海上の追かけでは客を申し分なくうならせて居る。市川百々之助氏の勇藏は世界をガラリと變えて居るのに、氏の扮裝が少しも變つて居ないのは如何した譯だらうか。あれぢや濱の若者とはどうしても思へないで困る。ファーストシーンの喧嘩振りやラストの追かけは百々之助映畫らしい意氣があつて大へに良し、濱化千榮子嬢のお吉は前回の謎の女より遙かに增しであつた。山下澄子嬢のお濱は今度はお附合に出て居るだけの役、靜香八郎氏の仙吉は敵役が段々板に付いて來た感で從來の作品中では今度の役が最も秀逸であつた。市川百々之助氏門下の百一百二百三氏等は未だ朋の幟が取り切れて居ない。撮影はロケーション本位だけ割合にヌケが良かつた。――山本　綠葉――

興行價値――夏向の映畫なので、少し時期を逸した感がないでもない、然し百々之助氏が元氣に動いて居るから、客はそれで滿足するであらう。（九月十六日、京都キネマ倶樂部封切）